

学位プログラム DP レビュー  
2023年度看護学部

1. 現状の説明

①授業実施評価レポート

成績評価アンケートの結果は、約 85%の学生が透明性、客観性、妥当性、公平性において「不足する科目はない」と回答しており、概ね良好であった。少数ではあるが成績評価に疑問を持つ学生がおり、特に低学年である1、2年生においては「不足を感じる科目がある」と回答した学生が1割程度いた。また、自由記述への記載が7件あり、評価基準についての記載が多かった。検討の結果、全体的には良好な結果であり大きな問題はないと判断された。成績評価の方法や内容に関して一部の学生に十分な理解が得られていない可能性があると考えられた。以上を踏まえ、シラバスや授業内、オリエンテーション等で詳細な説明を行うこととした。

成績分布については、専門基礎科目及び専門科目の全体で見ると、学科全体として一定のバランスがとれており、大きな問題はなかった。また、S 評価が0人の科目が7科目あり、これらの科目について確認を行ったが、受講者数が少ないことや学習不足等が原因であり、成績評価については問題ないと考えられた。受講者数が0名または9名以下の科目が7科目あり、そのうち、6科目については2020年、2021年と同様の傾向であった。検討した結果、看護学部は必須科目が多く、実習期間が長いことにより、これらの選択科目を受講する余裕がない、希望があっても受講できない、科目受講の必要性を感じにくいことなどが原因として考えられた。2022年度より新カリキュラムが開始となり、単位数や科目の編成や内容の変更を行っていることから新カリキュラムへの完全移行となる2025年度まで経年的に確認し判断することとした。

②DP アンケート

看護学部における DP アンケートの結果は、全項目で平均値が 4.5 以上であり、全 9 項目の平均値も 4.7 で、2021年度と同様に比較的高い傾向が示された。学生は 4 年間を通して必要な能力を身につけたことを実感し、看護学部の DP を満たすことができおり、学習の成果について一定の評価が得られた。

③進路・資格試験・留年・退学状況

卒業生の進路としては、就職・進学率 100%であり良好であると言える。就職先の内訳は医療施設 69.1%、教育（養護教諭等）9.5%、官公庁（保健師等）9.5%、進学 11.9%であった。学生は希望した施設に就職・進学できており、「社会や対象が抱えている健康上の問題に対して、多職種と協働し、諸課題に対して適切な看護が選択できる看護専門職者を育成する」という学科の教育目標と一致しており、また、多様な場で働く看護職を育成することにつながったと言える。資格試験の合格率は看護師 93.3%であり、全国平均（新卒）の95.5%を下回った。保健師は 100%であり、全国平均（新卒）96.8%を上回った。留年生は 11 名であり前年度と比較すると大幅に増加したが、そのうち5名は留学や養護教諭コースへの進路変更に伴う科目履修などが理由であり、6名が進路決定や経済的理由であった。退学者は 4 名であり、前年度より減少したものの、2 年次の退学が 3 名と多く、1名は4年生であり留年生であった。退学者の理由として進路変更などがあった。2 年生は専門科目が増える時期であり、また、本格的な臨地実習も始まるため進路に迷いが生じやすい傾向にあると考えられた。

## 2. 対応プランの結果

2022年度は以下の点について計画し、対応した。

①成績評価については学生への理解を深めるために、丁寧な説明と理解を得ることが必要であったため、2021年度から引き続き、担当教員に対して、シラバスの中でディプロマ・ポリシーに基づいた到達目標や評価基準を詳細に記載するように求める事とした。また、授業の初回時に、シラバスを用いて評価方法等についての説明と授業内や最終回に定期試験範囲、出題方法等を伝え、質問を受け付けること、新年度オリエンテーションでの評価方法等についての説明などを行った。概ね良好な結果であったことは、これらの対応により学生への理解が促された結果であると思われる。しかし2021年度と比較すると、透明性、客観性、妥当性、公平性に不足する科目が無いと回答している割合が低下しており、また低学年に成績評価に疑問を持っている学生が多い傾向であったことから、今後も上記対応についてさらに充実させていくこととなった。成績分布については、前年度に引き続き各担当教員に対して、シラバス作成時に科目の特性や目的及び到達目標を鑑み、評価方法について再確認し現状維持できるよう依頼した。その結果、学科全体の成績分布は一定のバランスがとれているとともに、不可や無資格の学生が少ない結果となった。受講生の少ない科目については、2021年度と同様に可能な範囲での時間割の見直しや、年度初めのオリエンテーションで学生に対して科目の説明を行ったが受講者の増加には至らなかった。新カリキュラムで科目の再編や授業内容等の変更を行っていることから新カリキュラムへの移行が完了する2025年度まで継続的に確認していくこととした。

②学習上課題がある学生や精神面での支援が必要な学生のために、アドバイザー制度やメンター制度を活用し、学生への対応を行った。昨年度より留年生が増えたものの、留年理由が留学や養護教諭への進路変更に伴う科目履修などの理由も多く、不本意な理由によるものは6名であったことから、アドバイザー制度やメンター制度の活用がみられていると考える。しかし、不本意な理由による留年者がいることや、退学者の75%が2年生であり進路変更などの理由もあったことから、アドバイザーやメンター制度をさらに強化し、教員が連携しながらより細やかなフォローを行っていく必要がある。また、新カリキュラム科目の中で看護職の魅力ややりがいなどを1年次の早い段階から見出せるよう時間割を変更したことや科目の内容についても見直したことなどから、新カリキュラム導入学年である1年生の留年・退学状況も継続的に確認していくこととする。資格試験については、進路・生活支援部会が中心に支援を行い、成績低迷の学生については12月から支援体制を整えた。しかし、支援に参加しない学生や支援対象外の学生が、看護師国家試験が不合格となったため、早期より学生への意識づけを行うとともに、学習支援が必要な学生についてはアドバイザーと進路・生活支援部会が情報共有しながら早期より支援を行っていく必要がある。保健師国家試験については、担当教員がきめ細やかな支援を行ったことが、100%の合格率に繋がった。

### 3. 今回の課題と対応プラン

①成績評価の方法については、少人数ではあるが、一部学生に十分な理解を得られていない可能性があることから引き続き、シラバスへの評価方法についての詳細な記載と授業時の説明に加え、新年度オリエンテーションでの内容や方法を見直し、学生にわかりやすいよう丁寧な説明を行っていくこととする。成績分布については、大きな問題は認められなかったため、今後も各担当教員に対してシラバス作成時に科目の特性や目的、到達目標を踏まえ評価方法を再検討し、現状維持できるよう依頼していく。S評価が0人であった科目については、経年的な状況を確認し、同様の状況が続く場合は、授業内容と成績評価の整合性等について検討するよう依頼していく。受講者の少ない科目については、6科目が3年間連続して同様の傾向が続いている。科目内容としては時代のニーズに即しており、看護職を目指す学生が学習することによって得られる視点も大きいことから、引き続き学生への科目概要の説明を行う事が必要である。また、2022年度からの新カリキュラムにおいては、必修科目の単位数や卒業要件単位数を見直し、学生が科目を選択しやすい状況に整えたことと、科目内容や時間割の調整を順次行っていることなどから、新カリキュラムへ完全移行する2025年度までは上記対策を引き続き行いながら、受講者数の推移を見て科目の必要性等の検討を行っていくこととする。

②留年生や退学者で進路検討や進路変更などの学生が複数いた。進路変更は学生にとって必ずしも悪い選択肢となるわけではないが、学習上の課題や精神的な問題による不本意な留年や退学とならないよう、アドバイザー制度やメンター制度をより充実させ、教務部会や進路・生活支援部会などとも連携しながら、支援が必要な学生には早期より対応できるよう関わっていく必要がある。また、DP アンケートの自由回答の中に、国家試験対策についての記載もあったことや看護師国家試験の合格率が全国平均を下回ったことなどから、進路・生活支援部会やアドバイザーを中心に、早い段階から学習環境を整え、看護学部全体で支援していく必要がある。

### 4. DP 達成状況のまとめ

以上、本学位についてDPは4年間を通して看護の専門職者として必要な能力を身につけ卒業していることから、概ね順調であると言える。しかし、看護師国家試験の合格率が全国平均を下回ったことや、退学者や留年者が一定数いることなどから、学部全体として学習環境を充実させ、支援が必要な学生には、アドバイザー、メンター教員、教務部会、進路・生活支援部会を中心となり、体制を整え関わる必要がある。2022年度より新カリキュラム導入開始となったため、看護学部が掲げる看護専門職者の育成に過不足はないか、教育内容や方法を点検し、必要に応じて調整していく必要がある。

#### 添付資料

- ・DP アンケート
- ・進路、資格試験、留年、退学状況（資料はこちらをクリック）
- ・授業実施評価レポート

2023年7月19日

看護学科殿

教務共通教育部会長

### 看護学科ディプロマポリシーアンケート結果報告

#### 1. ディプロマポリシーのアンケート結果

質問項目	平均値
1. 看護学部での学びで、対象を支援するために必要な専門知識が身についた。	4.7
2. 看護学部での学びで、科学的根拠に基づいて対応できる問題解決能力が身についた。	4.7
3. 看護学部での学びで、対象にあわせて、根拠に基づいた適切な看護を選択する力が身についた。	4.6
4. 看護学部での学びで、対象にあわせて、安全で適切な専門的看護技術を有している。	4.5
5. 看護学部での学びで、柔軟な思考を持ち、他者との違いを理解した上で、自分の意見を伝えることができるようになった。	4.6
6. 看護学部での学びで、他者に対して関心を持ち、人間関係をつくる態度が身についた。	4.7
7. 看護学部での学びで、看護の役割を自覚し、健康に関する諸問題を主体的に探究することができるようになった。	4.6
8. 看護学部での学びで、対象の問題を解決するために多職種と連携する意欲と態度が身についた。	4.7
9. 看護学部での学びで、看護者として異なる価値観や文化を理解・尊重する倫理観や責任感が身についた。	4.7
全項目平均	4.7

#### 自由回答

- ・実践に基づいた指導が良かったです。
- ・しっかり学びやすい環境だったのがよかった
- ・国家試験の対策をもう少し早くから開始してもよいかなと思いました
- ・先生と1対1で面談出来たら話しやすいと思います。
- ・先生方による手厚いご指導のおかげで学習を深めることができた。

#### 2. 結果について

- ・すべての項目において、5点満点中4.5以上という結果でした。平均点も4.7となっており学生は4年間の学習成果を高く評価していると考えられます。
- ・自由記述に記載された意見として、国家試験対策を早期に開始する事を希望する意見がありました。国家試験の結果も踏まえ、国家試験対策について改善の可能性を検討お願いします。

# 授業実施評価レポート

## 2023 年度 看護学部

### 1. 2022 年度の状況

#### ①成績評価アンケート

看護学部の専門科目の成績評価アンケートの結果は、約 85%の学生が透明性、客観性、妥当性、公平性において「不足する科目はない」と回答しており、概ね良好であった。しかしながら、これらの項目の中で「不足する科目が 1 つか 2 つあった」と回答した学生や、透明性、客観性、公平性の項目において「不足する科目がいくつもある」と回答した学生が一定数いた。また、低学年である 1、2 年生においては、これらの項目の中で「不足を感じる科目がある」と回答した学生が 1 割程度いた。自由記述においては、講義科目について 3 件、演習科目について 1 件、実習科目について 3 件の記述があり、記述内容のほとんどが評価基準についての内容であり、これらの点について検討を求められた。

学部内で検討した結果、全体としての結果は良好であり、シラバスへの記載や授業内での評価基準の説明等が行われていることが確認できた。しかしながら、成績評価について疑問を持っている学生が一定数おり、特に、大学での授業に慣れていない低学年の学生にその傾向が高いことなどから、引き続き授業内で評価基準や評価方法等の説明を行うことに加え、低学年については、オリエンテーション等でも詳細な説明を行っていくこととなった。

#### ②成績分布及び受講者数

成績分布については、専門基礎科目及び専門科目の全体の成績分布は A 評価が最も多く次いで S 評価、B 評価、C 評価の順で、不可、未受験及び無資格は若干数であった。2021 年度に比べると専門基礎科目がやや減少しているものの、学科全体として、成績分布は一定のバランスがとれていると判断した。

演習・実習科目を除き、受講者数が多い科目の中で S 評価が 2/3 を超えている科目は 0 科目であった。また、S 評価が 0 人の科目が 7 科目あり、これらの科目について教務共通教育部会より評価方法及び成績評価方針についての確認を求められた。各担当教員に確認したところ、6 科目については評価方法等の問題はなく、受講者数が少ないことや学年の特徴により定期試験の結果が全体的に低く、学習が不足している学生が多かったこと等が原因であり、問題はないと考えられた。1 科目については、評価方法には問題はないが、学生の学修を促進するために評価方法を見直しているという事であったため、次年度以降の成績分布を確認していくこととなった。

受講者数については、受講者数が 0 名の科目は 3 科目、受講者が 9 名以下の科目は 4 科目であり、そのうち、6 科目については 2020 年、2021 年と同様の傾向であった。このため、教務共通教育部会から、科目の必要性や妥当性、開講時期等の確認を求められた。検討の結果、看護学部は必須科目が多く、実習期間が長いことから、これらの選択科目を受講する余裕がないことや、希望しても受講しにくいことなどが考えられた。また、これらの科目概要

が、学生に十分に伝わっておらず科目受講の必要性を感じていないことなども原因として考えられた。

受講のしやすさについては、2022年度より開始された新カリキュラムの中で、科目の編成や内容の検討を行っており、時間割も含めた見直しを行っていることから、新カリキュラムに完全に移行する2025年度まで経年的に確認して判断していくこととなった。科目の内容としては、受講者数が少ないものの、これからの時代のニーズにマッチした科目も多く、受講することにより専門家としての視野も広がることから、科目の必要性は高いと考えられた。学生への科目の魅力を発信し、受講することにより得られる力を説明する場を設けるなどを行っていくこととなった。また科目によっては、ケアリング・ナーシングプログラムの履修証明の要件科目であることから、そのことも含めて学生に情報提供していくことも必要であることを確認した。

## 2. 2022年度レポート対応プランの結果

2022年度は以下の2点について計画実施した。

- ① 成績評価については、2021年度から引き続き、学生が評価内容や方法を理解できるように担当教員に対して、シラバスの中でディプロマポリシーごとに到達目標や評価基準を詳細に記載するように求める事としている。また、授業の初回時にシラバスを用いて評価方法等について学生に説明を行い、さらに授業内や最終回に定期試験範囲、出題方法等を伝え、学生からの質問を受け付け、透明性と公平性を担保した。85%の学生が透明性、客観性、妥当性、公平性において不足する科目はないと感じていたことは、これらの対応により学生への理解が促された結果であると思われる。しかし、2021年度と比較すると、透明性、客観性、妥当性、公平性において不足する科目はないと感じている学生の割合が低下していることや、1,2年生の1割程度が不足する科目があると感じていたことなどから、看護学部の学生全体への理解を促すためには、現在の対応に加え、特に低学年を中心に、より丁寧な説明が必要である。説明においては学生目線で理解ができることが必要であることから、新年度オリエンテーションの内容や方法についても検討していく必要がある。また、自由記述のコメントが記載されていた科目については、対応策を再度検討していく必要がある。
- ② 成績分布については、各担当教員に対して、シラバス作成時に科目の特性や目的及び到達目標を鑑み、評価方法について再確認し現状維持できるよう依頼した。その結果、学科全体の成績分布は一定のバランスがとれているとともに、不可や無資格の学生が少ない結果となった。受講生の少ない科目については、2021年度と同様に可能な範囲での時間割の見直しや、年度初めのオリエンテーションで学生に対して科目の説明を行ったが2022年度は受講者の増加には至らなかった。2022年度から始まった新カリキュラムの中で、科目の再編や内容検討を行っていることから、新カリキュラムへ完全移行する2025年度までは上記対策を引き続き行いながら、受講者数の推移を見ていく必要がある。

### 3. 対応プラン

- ① 2022 年度に実施した対策を継続して行う。加えて、低学年の学生には新年度オリエンテーション等でシラバスの活用法や成績評価、評価基準の確認方法について理解できるよう、より丁寧な説明を行う。また、自由記述に記載された科目については、シラバス作成時に評価方法の記載を再度見直し、評価方法の詳細な記載と学生への丁寧な説明を行い学生の理解を促す事と、提示した評価方法が担保されるようにする。やむを得ず学習内容を変更する場合は、評価方法の変更も含めて学生への丁寧な説明の実施を徹底する。
  
- ② 成績分布については、2022 年度も前年度と同様、大きな問題は認められなかったため、今後も各担当教員に対して、シラバス作成時に科目の特性や目的及び到達目標を鑑み、評価方法について再確認し現状維持できるようにしていく。受講者数については、2022 年度から開始された新カリキュラムの中で、科目の編成や科目内容の変更の必要性を受講者数の状況を踏まえながら2025 年の完全移行まで経年的に確認していく。また、必要に応じて時間割の見直しも行っていく。

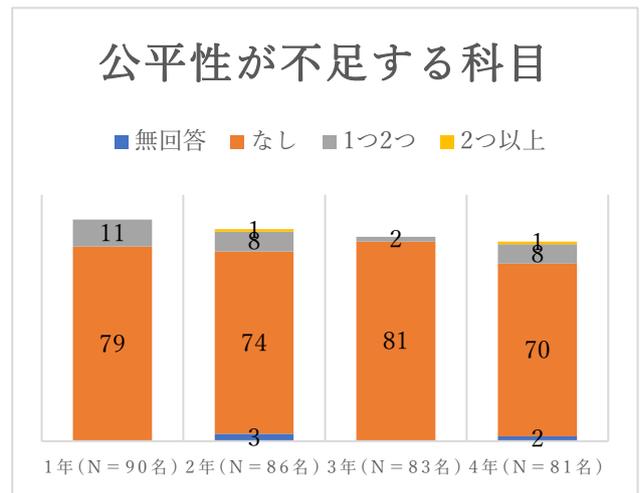
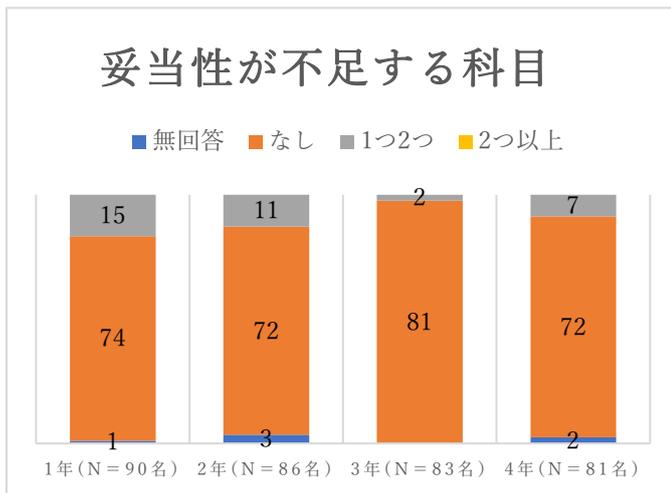
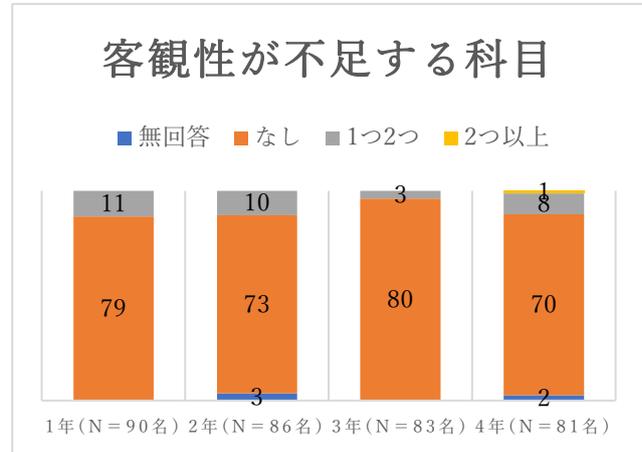
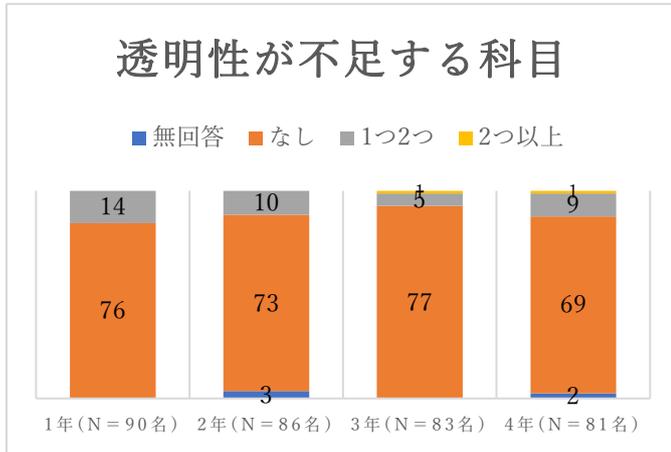
#### 添付資料

- ・成績評価アンケート結果
- ・科目成績分布及び受講者数

## 看護学科成績評価アンケート結果報告

## 1.成績評価アンケートの結果

(専門科目)



## 2.結果について

1. 専門科目の評価については、およそ85%の学生が透明性、客観性、妥当性、公平性において「不足する科目はない」と回答していました。また、4つの項目について、不足を感じている学生の多くが「不足する科目が1つか2つあった」と回答していました。「不足する科目がいくつもある」と感じている学生は、1年生にはいませんでしたが、2、3、4年生に透明性、客観性、公平性の項目で回答がありました。
2. 学年別にみると、「不足する科目がない」と回答した学生が85%に満たなかった項目は、1年生では透明性と妥当性の2項目、2年生では透明性、客観性、妥当性の3項目、3・4年生は該当する項目はありませんでした。学年が低い方が成績評価に疑問をもつ学生がやや多い傾向でした。
3. 以上の結果から、成績評価に対して多くの学生が概ね納得していると考えられました。
4. 1、2年生は全ての項目において「不足を感じる科目がある」と回答した学生の割合が1割程度ありました。シラバスへの提示だけでなく、オリエンテーションや授業内で成績評価の方法について丁寧な説明を行う必要があると考えられます。
5. 自由記述で意見が出ている科目については現状を確認し、評価方法等の改善が必要かを検討することが必要であると考えます。

2023年6月6日

看護学科殿

教務共通教育部会長

上野 行良

## 看護学部 看護学科 専門科目 受講者数及び成績結果状況報告

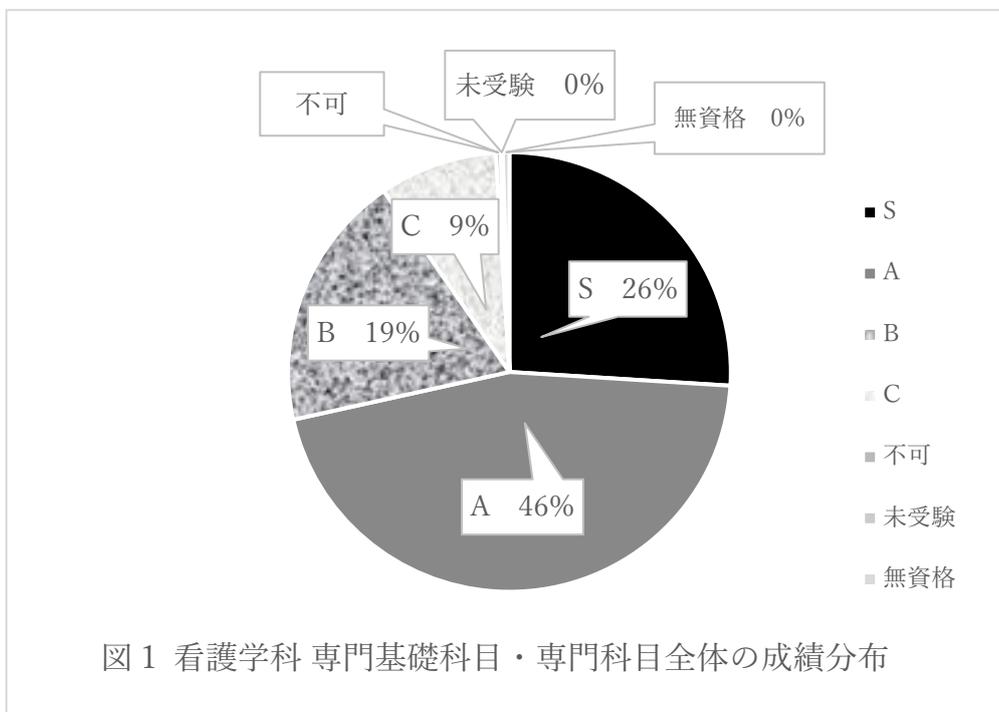
2022年度の看護学部看護学科の専門科目の各科目の受験者数及び成績結果をお知らせいたします。

### 結果について

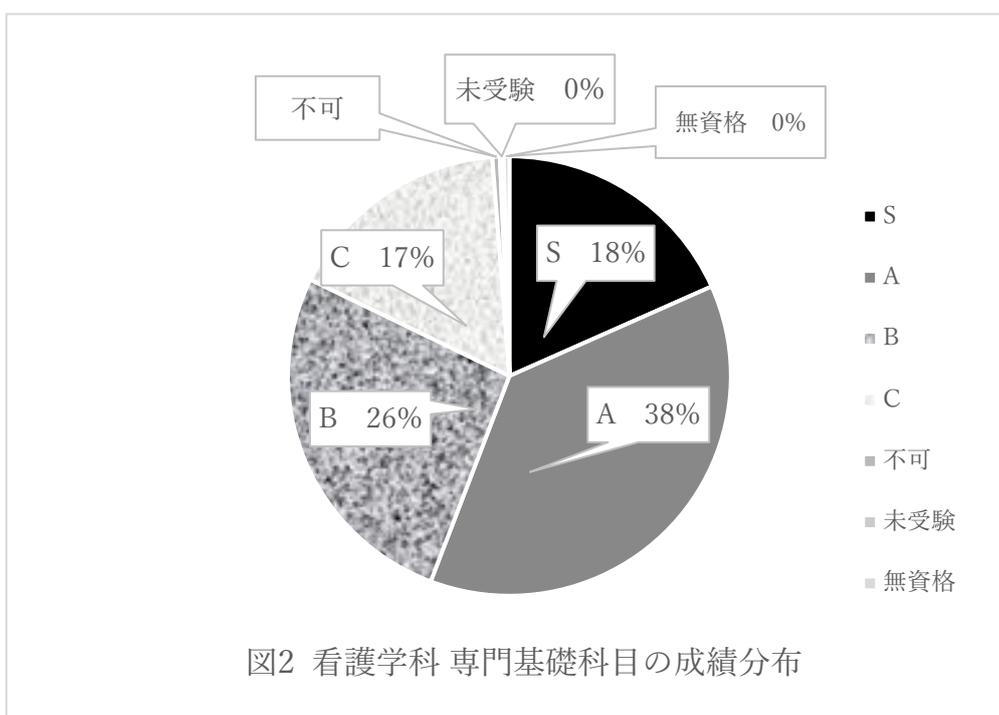
1. 前年度と同様、看護の専門基礎科目および専門科目の全体の成績分布は、Aが46%と最も多く、次いでSは26%、Bは19%、Cは9%でした。不可、未受験および無資格は合わせて0.98%でした。
  2. 専門科目のSは27%であったのに対し、専門基礎科目は18%で、専門基礎科目は専門科目に比べてS評価がやや少ない結果でした。また、前年度は専門科目のSが28%、専門基礎科目のSが32%であり、専門基礎科目のSがやや減少しています。
  3. 「保健社会調査論」、「臨床心理学」、「キャリア像確立講義Ⅱ」は前年度と同様、受講者がいませんでした。そのため、科目の必要性や妥当性について確認する必要があります。
  4. 選択科目「東洋医学概論」「国際看護学」「生態機能看護学Ⅲ」「看護教育学」は受講者が9名以下でした。特に、「東洋医学概論」「国際看護学」「生態機能看護学Ⅲ」については、2020年度より引き続き受講者が少ない状況です。科目の必要性や妥当性および開講時期等を確認してください。多くの受講者が望まれる科目の場合、対策等を取られてください。
  5. 各授業の成績分布では、成績に不可が多い科目はありませんでした。ただし、「看護生化学」では不可の学生が8名と、前年度(4名)より、若干ですが不可の学生が多い傾向でした。受講者が多い科目の中で、成績Sが2/3を超えた科目はありませんでした。(演習・実習科目除く)。
  6. 成績Sが0人の科目は、「保健医療福祉行政論Ⅱ」「病態看護学Ⅱ」「国際看護学」「看護教育学」「看護実践論」「公衆衛生看護学Ⅱ」「公衆衛生看護学実習Ⅰ」の7科目でした。評価方法や成績評価方針について確認をお願いします。前年度の4科目(「病態看護学Ⅰ」「栄養学」「看護教育学」「小児看護学概論」)より増加しています。
- \* 本コメントは、問題点を指摘するものではありません。問題がないかを確認し、問題がない場合、これで妥当であることを説明できるようにしてください。また、変更した方が良い点がある場合は、具体的な対策を立てられてください。

添付資料

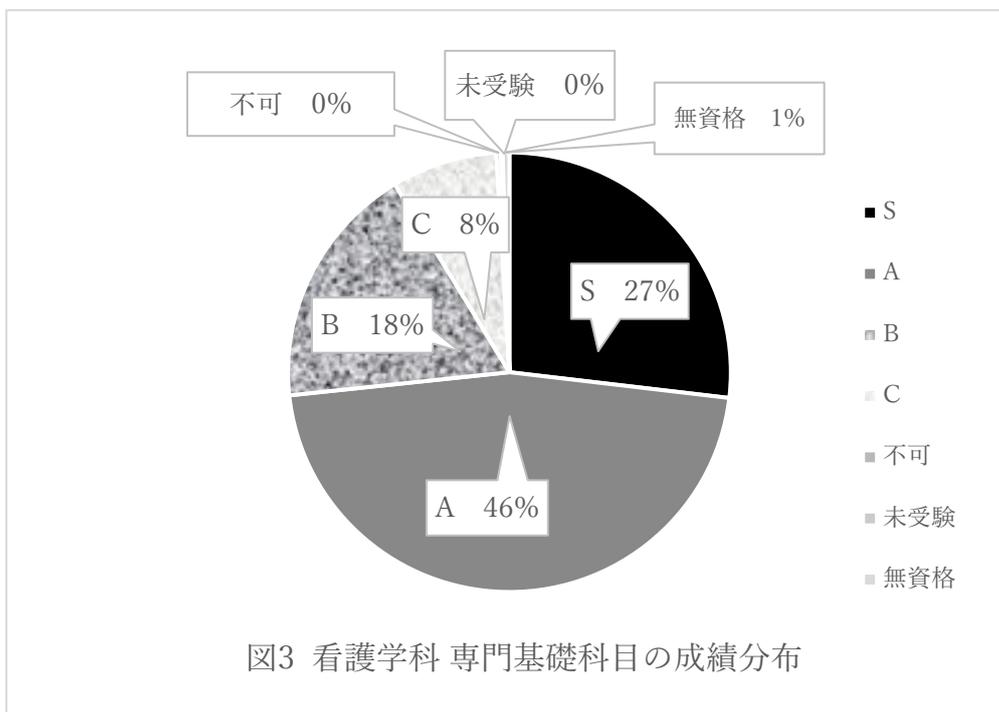
(1) 看護学科の専門基礎科目および専門科目の全体の成績分布



(2) 看護学科の専門基礎科目の全体の成績分布



(3) 看護学科の専門科目の全体の成績分布



(4) 各授業の成績分布

① 専門基礎科目

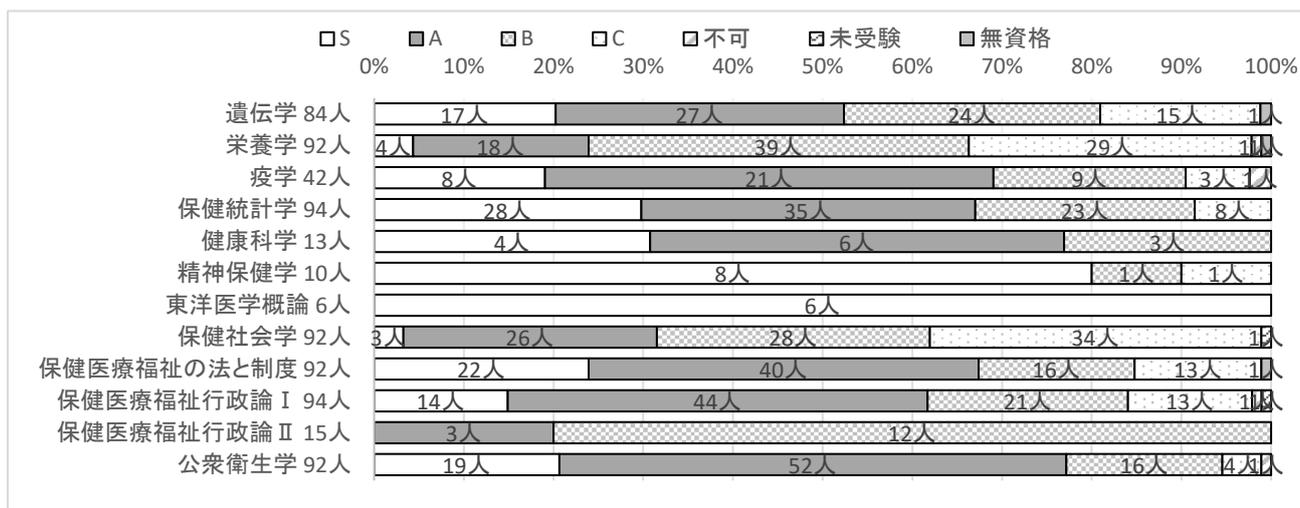


図4 看護学科 専門基礎科目 各科目の成績評価の分布

②専門科目

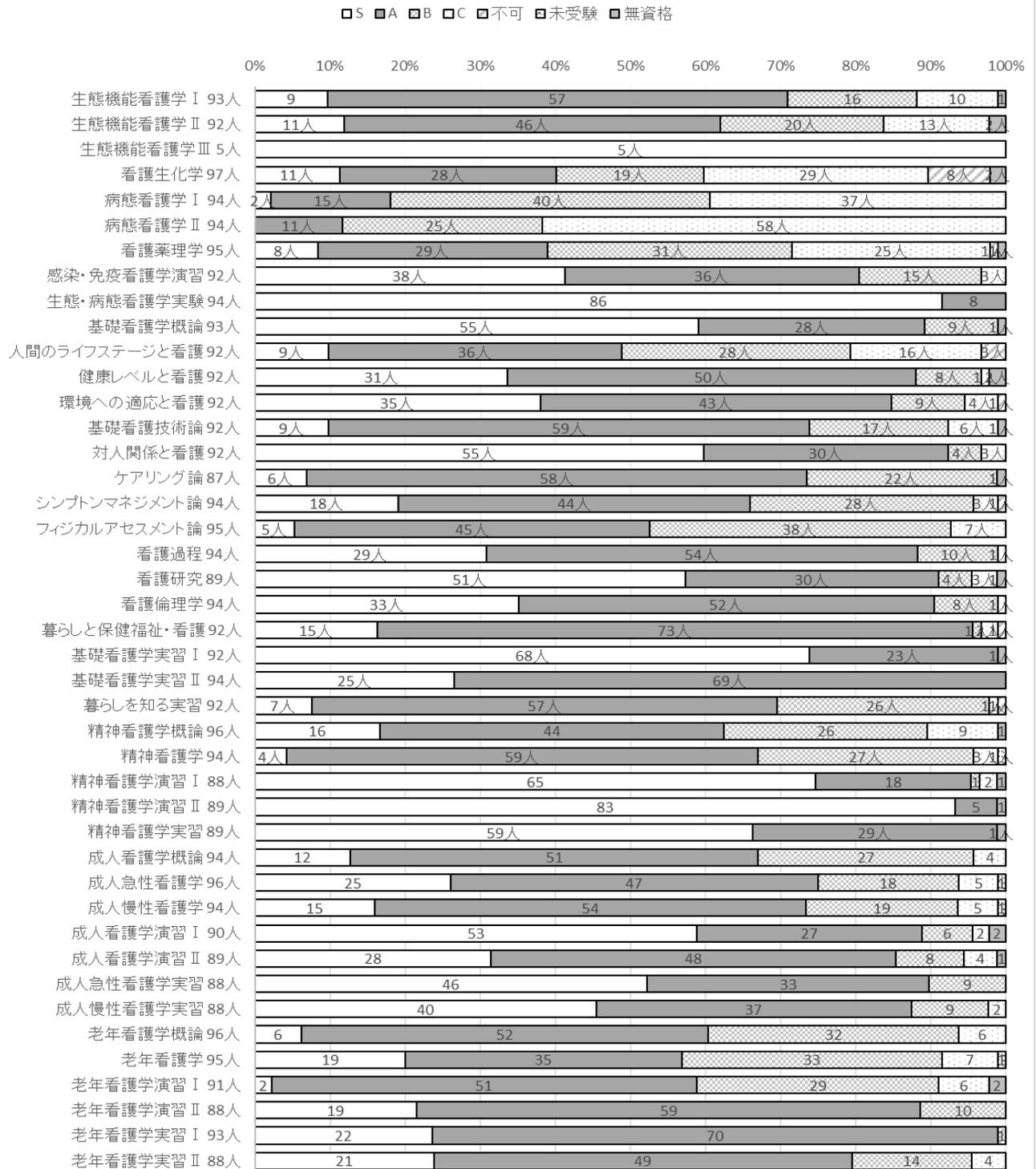


図5 看護学科 専門科目 各科目の成績評価の分布(その1)

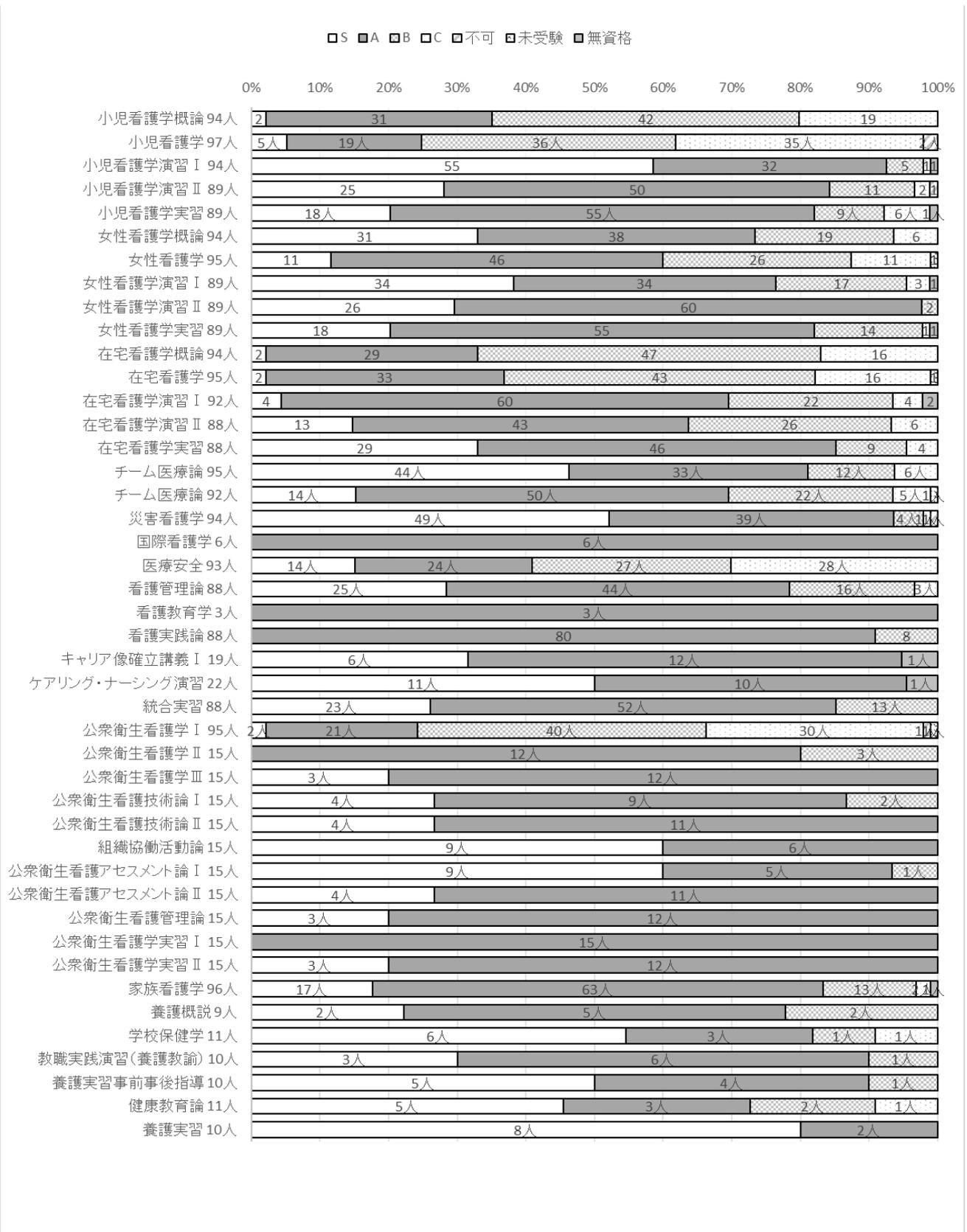


図6 看護学科 専門科目 各科目の成績評価の分布(その2)

看護学部：専門基礎科目

	単位		授業方法	開設時期(標準履修年次)	DP1	DP2	DP3	DP4
	必修	選択						
遺伝学		2	講義	1	○	○	○	
栄養学	2		講義	1	○		○	
疫学		2	講義	2	○	○	○	○
保健統計学	2		講義	2	○	○		
保健社会調査論		2	演習	3	○		○	○
健康科学		2	講義	2	○	○		
臨床心理学		2	講義	3	○		○	
精神保健学		2	講義	2	○		○	
東洋医学概論		1	講義	2	○	○	○	○
保健社会学	1		講義	1	○			○
保健医療福祉の法と制度	1		講義	1	○			○
保健医療福祉行政論		2	講義	4	○			○
公衆衛生学	2		講義	1	○			

看護学部：専門科目

授業科目の区分と科目名		単位		授業方法	開設時期 (標準履修年次)	DP1	DP2	DP4
		必修	選択					
実験看護学	生態機能看護学Ⅰ	2		講義	1	○		○
	生態機能看護学Ⅱ	2		講義	1	○		○
	生態機能看護学Ⅲ		1	演習	4	○		○
	看護生化学	2		講義	1	○	○	
	病態看護学Ⅰ	2		講義	2	○		
	病態看護学Ⅱ	2		講義	2	○		
	看護薬理学	2		講義	2	○		
	感染・免疫看護学演習	1		演習	1	○		
	生態・病態看護学実験	1		実験	2	○	○	○
基礎看護学	基礎看護学概論	2		講義	1	○		○
	人間のライフステージと看護	1		講義	1	○		
	健康レベルと看護	1		講義	1		○	○
	環境への適応と看護	1		講義	1		○	○
	基礎看護技術論	2		演習	1	○	○	○
	対人関係と看護	1		演習	1		○	○
	ケアリング論	1		講義	3	○		○
	家族看護学	1		講義	2	○		○
	シンプトンマネジメント論	1		演習	2	○	○	○
	フィジカルアセスメント論	2		演習	2	○	○	
	看護過程	1		演習	2	○	○	○
	看護倫理学	1		演習	2	○		○
地域・在宅看護論	暮らしと保健福祉・看護	2		講義	1	○	○	
	地域・在宅看護論	2		講義	2	○	○	○
	地域・在宅看護論演習	2		演習	3	○	○	○
成人・老年看護学	成人老年看護学Ⅰ（急性期）	2		講義	2	○	○	○
	成人老年看護学Ⅱ（回復期・慢性期）	2		講義	2	○	○	○
	成人老年看護学Ⅲ（終末期）	2		講義	2	○	○	○
	クリティカルケア・周術期看護演習	2		演習	3	○	○	○
	セルフケア支援演習	2		演習	3	○	○	○
小児看護学	小児看護学	2		講義	2	○		
	小児看護学演習	2		演習	3	○	○	○
ヘルステック看護学	リプロダクティブヘルス看護学	2		講義	2	○	○	○
	リプロダクティブヘルス看護学演習	2		演習	3	○	○	○
精神看護学	精神看護学	2		講義	2	○		
	精神看護学演習	2		演習	3	○	○	○
看護の統合と実践	チーム医療論	1		講義	1	○	○	○
	災害看護学	1		講義	2		○	○
	国際看護学		1	講義	2	○		○
	医療安全	1		講義	2	○	○	○
	看護管理論	1		講義	4	○		○
	看護教育学		1	講義	3	○		○
	統合実践演習	1		演習	4	○	○	○
	看護情報学		1	演習	2	○	○	○
	キャリア像確立講義Ⅰ		1	講義	1	○		○
	キャリア像確立講義Ⅱ		1	講義	3	○		○
	ケアリング・ナーシング演習		1	演習	1		○	○
	看護研究	2		講義	2		○	○
	専門看護学ゼミ	2		演習	3	○	○	○
卒業研究	2		演習	4	○	○	○	

授業科目の区分と科目名		単位		授業方法	開設時期(標準履修年次)	DP1	DP2	DP4
		必修	選択					
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1		実習	1	○	○	○
	基礎看護学実習Ⅱ	2		実習	2	○	○	○
	暮らしを知る実習	1		実習	1	○	○	○
	暮らしの中の看護を知る実習	1		実習	2	○	○	○
	在宅看護支援実習	2		実習	3	○	○	○
	地域包括支援実習	1		実習	4	○		○
	成人老年急性期看護学実習	3		実習	3		○	○
	成人老年慢性期看護学実習	3		実習	3		○	○
	小児看護学実習	2		実習	3	○	○	○
	リプロダクティブヘルス看護学実習	2		実習	3	○	○	○
	精神看護学実習	2		実習	3	○	○	○
	統合実習	3		実習	4		○	○
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学Ⅰ		2	講義	2	○		
	公衆衛生看護学Ⅱ		2	講義	4	○		
	公衆衛生看護学Ⅲ		1	講義	4	○	○	
	公衆衛生看護技術論Ⅰ		2	演習	4	○		○
	公衆衛生看護技術論Ⅱ		2	演習	4			
	ハイリスク支援論		2	講義	4	○	○	○
	組織協働活動論		2	講義	4	○		○
	公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ		2	演習	3	○		
	公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ		2	演習	4	○	○	
	公衆衛生看護管理論		2	講義	4	○	○	
	公衆衛生看護学実習Ⅰ		1	実習	4		○	○
	公衆衛生看護学実習Ⅱ		4	実習	4		○	○
学校保健	養護概説		2	講義	2	○	○	
	学校保健学		1	講義	3	○	○	
	教職実践演習(養護教諭)		2	演習	4	○	○	
	養護実習事前事後指導		1	実習	4	○		
	健康教育論		2	講義	3	○		
	養護実習		4	実習	4		○	

# 看護学部カリキュラムツリー

知識・技能		思考・判断・表現	主体性・多様性・協働性
DP1	DP2	DP3	DP4
<ul style="list-style-type: none"> <li>現代において求められる幅広い基礎的教養を有している。</li> <li>人間を理解するための学術的な幅広い知識を有している。</li> <li>看護の専門知識および専門領域に隣接する諸科学の知識を有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代において求められる汎用的技能を身につけている。</li> <li>看護を提供するための基礎的な技能を有している。</li> <li>最適な看護を展開するための専門的な技能を有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代における諸問題について、幅広い分野の知識をもとに、必要な情報を収集、分析し、表現することができる。</li> <li>看護に関する課題について、情報を収集、分析し、表現することができる。</li> <li>高い倫理観をもち、対象が抱えている健康問題の本質を多角的視点から論理的に思考・判断できる。</li> <li>他者の意見を受け入れる柔軟な思考もち、自らの意見を適切に表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異なる文化や価値観を理解し、これらを尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけている。</li> <li>健康・医療に関する諸問題に主体的に取り組む力を身につけている。</li> <li>人々の健康の維持増進、生活の質向上のために、多職種と連携する基礎的な力を身につけている。</li> </ul>

取得免許・資格	看護師国家試験受験資格				保健師国家試験受験資格 養護教諭二種免許状★ 第一種衛生管理者免許★	養護教諭一種免許状	
4年次		・英語講読Ⅰ*		・保健医療福祉行政論**	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業研究</li> <li>看護管理論</li> <li>生態機能看護学Ⅲ*</li> <li>統合実践演習</li> <li>地域包括支援実習</li> <li>統合実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公衆衛生看護学Ⅱ**</li> <li>公衆衛生看護学Ⅲ**</li> <li>公衆衛生看護技術論Ⅰ**</li> <li>公衆衛生看護技術論Ⅱ**</li> <li>ハイリスク支援論**</li> <li>組織協働活動論**</li> <li>公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ**</li> <li>公衆衛生看護管理論**</li> <li>公衆衛生看護学実習Ⅰ**</li> <li>公衆衛生看護学実習Ⅱ**</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職実践演習(養護教諭)***</li> <li>養護実習事前事後指導***</li> <li>養護実習***</li> <li>生徒指導論A***</li> </ul>
3年次		・Advanced English Achievement*		<ul style="list-style-type: none"> <li>保健社会調査論*</li> <li>臨床心理学*</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケアリング論</li> <li>地域・在宅看護論演習</li> <li>クリティカルケア・周術期看護演習</li> <li>セルフケア支援演習</li> <li>小児看護学演習</li> <li>リプロダクティブヘルス看護学演習</li> <li>精神看護学演習</li> <li>看護教育学*</li> <li>キャリア像確立講義Ⅱ*</li> <li>専門看護学ゼミ</li> <li>在宅看護支援実習</li> <li>成人老年急性期看護学実習</li> <li>成人老年慢性期看護学実習</li> <li>小児看護学実習</li> <li>リプロダクティブヘルス看護学実習</li> <li>精神看護学実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ**</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校保健学***</li> <li>健康教育論***</li> <li>教師論***</li> <li>教育相談***</li> </ul>
2年次	人文科学、社会科学、自然科学、複合領域の全31科目より選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合英語(1)・(2)</li> <li>コリア語Ⅱ-(1)・(2)*</li> <li>中国語Ⅱ-(1)・(2)*</li> <li>仏語Ⅱ-(1)・(2)*</li> <li>独語Ⅱ-(1)・(2)*</li> <li>社会人基礎力演習*</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データベース論*</li> <li>情報ネットワーク論*</li> <li>問題解決演習*</li> <li>日本語ライティング*</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>疫学***</li> <li>保健統計学</li> <li>健康科学***</li> <li>精神保健学***</li> <li>東洋医学概論*</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>病態看護学Ⅰ・Ⅱ</li> <li>看護薬理学</li> <li>生態・病態看護学実験</li> <li>家族看護学</li> <li>シンプトナマネジメント論</li> <li>フィジカルアセスメント論</li> <li>看護過程</li> <li>看護倫理学</li> <li>地域・在宅看護論</li> <li>成人老年看護学Ⅰ(急性期)</li> <li>成人老年看護学Ⅱ(回復期・慢性期)</li> <li>成人老年看護学Ⅲ(終末期)</li> <li>小児看護学</li> <li>リプロダクティブヘルス看護学</li> <li>精神看護学</li> <li>災害看護学</li> <li>国際看護学*</li> <li>医療安全</li> <li>看護情報学*</li> <li>看護研究</li> <li>公衆衛生看護学Ⅰ**</li> <li>基礎看護学実習Ⅱ</li> <li>暮らしの中の看護を知る実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>養護概説***</li> <li>特別の支援を必要とする子供の理解***</li> <li>教育課程編成論***</li> <li>道徳教育A***</li> <li>特別活動・総合的な学習の時間***</li> <li>教育方法論***</li> </ul>	
1年次		<ul style="list-style-type: none"> <li>リーディング・ライティング(1)・(2)</li> <li>スピーキング・リスニング(1)・(2)</li> <li>コリア語Ⅰ-(1)・(2)*</li> <li>中国語Ⅰ-(1)・(2)*</li> <li>仏語Ⅰ-(1)・(2)*</li> <li>独語Ⅰ-(1)・(2)*</li> <li>海外語学実習事前指導*</li> <li>海外語学実習*</li> <li>Introduction to Studying in English*</li> <li>情報処理演習Ⅰ</li> <li>情報処理演習Ⅱ***</li> <li>教養演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校・ひきこもり援助論*</li> <li>子供学習支援論*</li> <li>プレ・インターンシップ*</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺伝学*</li> <li>栄養学</li> <li>保健社会学</li> <li>保険医療福祉の法と制度</li> <li>公衆衛生学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態機能看護学Ⅰ・Ⅱ</li> <li>看護生化学</li> <li>感染・免疫看護学演習</li> <li>基礎看護学概論</li> <li>人間のライフステージと看護</li> <li>健康レベルと看護</li> <li>環境への適応と看護</li> <li>基礎看護技術論</li> <li>対人関係と看護</li> <li>暮らしと保健福祉・看護</li> <li>チーム医療論</li> <li>キャリア像確立講義Ⅰ*</li> <li>ケアリング・ナーシング演習*</li> <li>基礎看護学実習Ⅰ</li> <li>暮らしを知る実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学概論B***</li> <li>教育と社会・地域***</li> <li>発達心理学Ⅰ-A***</li> <li>憲法***</li> </ul>	
	教養科目	基礎科目	全学横断型科目	看護学部専門基礎科目	看護学部専門科目		
	全学共通科目						

## アドミッション・ポリシー

- 高等学校等で履修した教科・科目について、基礎的な知識・技能を有している。
- 情報をもとに分析する技能を身につけている。
- 論理的に思考し、判断することができる。
- 自らの考えを適切に表現することができる。
- 様々な課題について主体的に取り組む姿勢がある。
- 多様性を尊重し、多様な人々と協働して取り組むことに意欲がある。

- 注1)掲載している科目は一部である。  
 注2) \*は選択科目である。  
 注3) \*\*は選択科目のうち、保健師サブコースにおける資格必修科目である。  
 注4) \*\*\*は選択科目のうち、養護教諭サブコースにおける資格必修科目である。  
 注5) [ ] は実習科目である。  
 注6) [ ] は看護学部の科目以外の養護教諭資格必修科目である。  
 注7) ★は保健師免許取得後に、申請により取得できる資格である。